

石西 自然再生 礁湖



「サンゴ礁生態系保全行動計画」フォローアップ会議の開催

サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議が今年2月に国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター（石垣市）で開催されました。この行動計画は、石西礁湖に限らず、サンゴが息づく地域全体を視野に入れた総合的な計画で、サンゴ礁生態系の保全及び持続可能な利用を促進し、地域社会の持続的な発展を図ることを目的として、平成22年に策定されました。行動計画の中では、サンゴ礁生態系の保全の基本的方針とともに、今後5年を目処に取り組むべき具体的な行動を示しており、関係する主体はそれぞれの立場からこの行動計画の推進を図っています。

今回、石垣市では初めての開催となったフォローアップ会議では、行動計画の実施状況の点検が行われるとともに、「良好なサンゴ礁生態系の維持が地域の社会的・経済的発展につながる仕組みづくり」を実現するために、サンゴ礁生態系とそれに関連する社会経済的な変動を把握する方法等について検討されました。また、会議の前日には、「サンゴ礁勉強会」が石垣市の白保公民館にて開催されました。今回の勉強会のテーマは陸域対策が中心で、琉球大学熱帯生物圏研究センターの中野氏、沖縄県衛生環境研究所の仲宗根氏、WWF サンゴ礁保護研究センターの上村氏の3名を講師にお招きし、海に流出する赤土の状況や畑における赤土対策、排水対策等についての講義や現地見学を行いました。勉強会には、フォローアップ会議出席者に加え、石西礁湖自然再生協議会の委員や地元住民を中心とした一般の方々も多数参加し、活発な質問や議論が交わされました。



▲サンゴ礁勉強会（白保公民館）



▲赤土流出対策である畑の沈砂池



▲道路から白保の海岸に流出する排水を見学

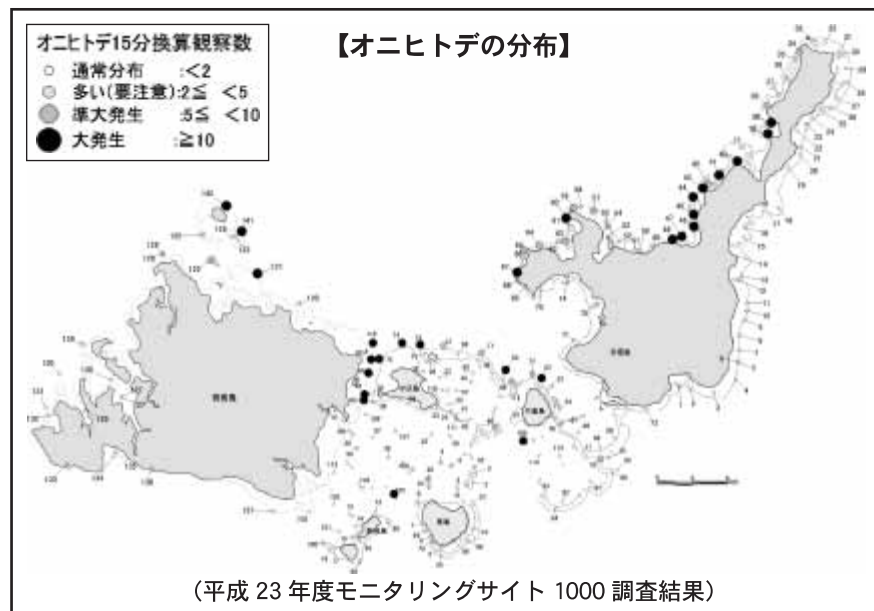
*「サンゴ礁生態系保全行動計画」の全文は以下のホームページでご覧いただけます。
<http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/apc/keikaku.pdf>

石西礁湖はいま シリーズ⑮

大発生しているオニヒトデへの対策

石西礁湖を含む八重山地方では、現在、サンゴを食べるオニヒトデが大量発生しています。これに対して地域の関係者で構成されている「八重山オニヒトデ対策協議会」では、オニヒトデの効果的な駆除のため、ただやみくもに捕獲数を増やすのではなく、比較的サンゴの状態が良く、かつ「守るべき」「守りたい」エリアを関係者で共有し、各主体が分担して、それらのエリアで重点的に駆除を実施しています。また、大発生メカニズムに関する勉強会や、駆除方法についての意見交換会なども実施しています。

この八重山オニヒトデ対策協議会はこれまで独立して活動を行ってきましたが、石西礁湖自然再生協議会の海域対策ワーキンググループ設立を受け、今後は自然再生協議会の取組の一部として活動を進めていきます。



▲酢酸注入駆除手法の意見交換会（平成24年2月）

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279

【石西礁湖ポータルウェブサイト】<http://www.sekiseisyouko.com>

【石西礁湖サンゴ礁基金による助成活動一覧】

① 八重山海域におけるオニヒトデの駆除 (助成済み/活動終了)

申請者	八重山ダイビング協会
助成額	15万円
趣旨・目的	八重山海域において、大発生しているオニヒトデを駆除する。
活動の概要	貴重なサンゴ群集がある限定した海域において、オニヒトデ産卵期の前に、オニヒトデ駆除を実施する。
現在の状況	平成22年8月4日 御神崎北海域で実施 9人参加(3ダイブ)。



② コーラルウォッチプロジェクト (助成済み/活動終了)

申請者	石西礁湖自然再生協議会コーラルウォッチプロジェクト実行委員会
助成額	5.3万円
趣旨・目的	継続的なサンゴの観察を通じ、石西礁湖の自然再生について関心を高め、環境問題や自然再生活動に前向きに関わってもらう。
活動の概要	小学生を対象としたコーラルウォッチを行う。
現在の状況	石垣島周辺で5回実施、小学生など延べ116人参加。



③ WS及びインプロシアター公演 (助成済み/活動終了)

申請者	八重山サンゴ礁保全協議会
助成額	23.5万円
趣旨・目的	海やサンゴ礁との関わりを考えてもらう。
活動の概要	ワークショップ (WS) とプロ集団によるインプロシアター (即興劇)。
現在の状況	WS: 高校生等30名参加、インプロ: 地域住民約100名参加。



④ サトウキビ株出し栽培への農法転換推進 (助成承認)

申請者	干川明
助成額	51万円
趣旨・目的	サトウキビ夏植え栽培を株出し栽培に変えるための支援を行う。
活動の概要	前年度に引き続き連続株出し栽培を希望する農家に対し、株出し管理機の農作業委託支援を行い、連続株出し栽培の支援・普及広報啓発活動を行う。
現在の状況	活動中(株出し実施12ヘクタール予定)。



⑤ 酢酸注射法によるオニヒトデ駆除の検証 (助成承認)

申請者	八重山ダイビング協会
助成額	15万円
趣旨・目的	八重山海域のオニヒトデ大量駆除に対応できる新たな駆除法として、その有効性・効率等の検証を行って普及につなげる。
活動の概要	米原ダブルリーフ・大崎・川平石崎のいずれかで駆除を行う。
現在の状況	活動中。



▲協議会全体



▲質疑応答



▲基金助成活動の発表



▲委員の様子

平成24年1月26日(木)に、沖縄県八重山合同庁舎において、「第15回石西礁湖自然再生協議会」を開催しました。今回の協議会は、委員59機関(71名)の方が出席し、土屋誠会長の進行のもと活発な議論が展開されました。

協議会では、初めに協議会委員である九州大学理学部附属天草臨海実験所の野島先生より、これまでの石西礁湖の様子についてご発表いただきました。発表では、石西礁湖の過去と現在を比較してサンゴの幼生供給量が減少していること、沖縄の他の海域と比較しても供給量が少ないことなどが発表されました。

続いて、前回協議会に引き続き、全体構想における目標の達成に向けた、より実働的な取組体制への変更についての議論がなされ、協議会運営事務局からは、「陸域対策」、「海域対策」、「普及啓発」、「学術調査」の4つのワーキンググループを立ち上げることが提案され、これらのグループで取組を進めていくことで意見が一致しました。

また、石西礁湖サンゴ礁基金においては、基金の運営や活動助成の報告があり、協議会委員の承認を得ました。特に、サンゴサポーターについては、新たに地元石垣市出身のミュージシャンである「きいやま商店」が加わることとなり、基金の広報効果が期待されることとです。

石西礁湖自然再生協議会の体制が変わります。

